

科目名	看護学概論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	1年 前期	
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護の概要については既習の知識があるため、看護者としてより人権を擁護する観点に立った代弁者的な役割が果たせるよう、また専門職としての倫理観を持つなど、看護の専門家に求められている倫理的根拠、法的根拠、基礎的理論、看護管理などを学習し、看護の本質について理解する。</p> <p>さらに、現在の看護の活動領域の広がりに対応し、看護の国際協力、国外での看護や在日外国人への看護の実際を理解する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義と概念、対象の理解・健康のとらえ方と健康状態について、その内容を理解、自己の考えを確立できる。 2. 看護における倫理的問題について、自分の考えをまとめることができる。 3. 我が国の看護制度や看護政策について、現状と特徴について理解できる。 4. 病院と地域における看護サービスシステムについて説明できる。 5. 国際看護の基本理念及び災害看護における看護の役割について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは 看護の本質 2. 看護の役割と機能、連携 3. 看護の対象の理解 4. 健康のとらえ方、国民の健康状態 5. } 看護における倫理 6. } 7. 死の看取りの援助 8. 看護の提供者 9. 看護職者の就業状況 10. 看護の提供のしくみ 11. 看護サービスの管理 12. 看護制度 13. 国際看護 14. 災害看護・トリアージ 15. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 最新版</p>								
<p>参考書</p> <p>F. ナイチンゲール 看護覚え書き 決定版 医学書院 V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 手島 恵 看護者の基本的責務 日本看護協会</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	基礎看護方法論 I (共通基本技術)	必修・選択		授業形態	単位数	開講時期	
区分	専門分野			講義・演習	1	1年 前期	
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、および看護者としての必要な判断力や、看護技術の根拠、看護を計画的に展開する際に最も基本となるヘルスアセスメントの技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における対象者とのコミュニケーションの進展と関係形成 2. 対象者の尊厳と権利を擁護する方法、およびアサーティブコミュニケーションを学ぶ。 3. 対象者の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的にアセスメントできるための知識・技術・態度を学ぶ。 4. 対象者の意思決定や治療への主体的な参画を支援する学習支援の技術を学ぶ。 							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技術について、グループワークをもとにその技術を身につけることができる。 2. 対象者との関係形成のあり方、アサーティブコミュニケーションの方法について説明できる。 3. 対象者の意思決定及び主体的参画を促す学習支援の技術について理解できる。 4. ヘルスアセスメントの概略について理解し、系統別フィジカルアセスメントの技法とその根拠について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序章 看護技術を学ぶにあたって（基礎看護技術 I） 序章 看護技術の根拠をなすもの（基礎看護技術 II） 2. コミュニケーションの基本 コミュニケーション障害への対応 アサーティブコミュニケーション 3. 基礎看護技術 I 第2章 ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 4. } バイタルサインの方法と分析 5. } 6. } 7. } 系統別フィジカルアセスメント 8. } (呼吸器系、循環器系、乳房、筋・骨・神経系) 9. } 10. } 11. 心理・社会状態のアセスメント 12. 学習支援 13. } 演習 14. } 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	基礎看護方法論Ⅱ (共通基本技術)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 前期	
区分	専門分野						
担当者	加賀爪美佳	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象の健康障害を理解し、根拠に基づいて、支障をきたす対象者の日常生活の援助ができるための知識・技術・態度を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の安全・安楽をまもり、個別性を配慮し自立を促す看護援助ができる。 2. 対象者の状態をふまえ、優先順位を判断し看護援助ができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 第2章 食事援助技術 2. } 3. } 4. } 第3章 排泄援助技術 5. } 6. } 第6章 清潔・衣生活援助技術 7. } 8. } 第1章 環境調整技術 9. } 10. } 11. } 第4章 活動・休息援助技術 12. } 13. } 第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 14. } 15. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	基礎看護方法論Ⅲ (診療の補助技術)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期	
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生体侵襲の大きい検査・治療・処置に伴う看護の技術を学び、患者の身体の状態を把握するために看護師が行う基本的看護技術について学ぶ。 看護者として必要な看護技術の根拠とアセスメント、判断力について学習する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に行われる検査・治療・処置をイメージでき、看護技術の各項目について主義のポイントや注意点、根拠を理解できる。 2. 患者の身体の状態を把握するためのアセスメント技術について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、排痰ケア 2. 呼吸・循環を整える技術 胸腔ドレナージ、吸入 3. 創傷管理技術 創傷処置、褥瘡予防 4. 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 5. 診察・検査・処置における技術 6. 与薬の技術 7. 経口・吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸内 8. 注射、輸血の管理 9. 救命救急処置技術 急変時の対応、止血法 10. } 救命救急処置技術 心肺蘇生法、人工呼吸療法 11. } 12. 症状・生体機能管理技術 検体検査 13. } 14. } 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>適時資料配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	基礎看護方法論Ⅳ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期	
担当者	加賀爪美佳	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護過程を展開するために必要な基本的な知識を学習する。 事例を用いて展開することで、対象者に応じた看護を実践するために必要な問題解決力・思考力を深めることができる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を展開するために必要な基本的な知識を学習する。 2. 事例を用いて展開することで、対象者に応じた看護を実践するために必要な問題解決力・思考力を深めることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは（定義と構成要素）、看護過程とPOS（看護過程） 2. いろいろな理論家による枠組み（ヘンダーソン、オレム、ゴードン、NANDA） 3. ヘンダーソンの考えによる看護の展開：理論、看護の構成要素 4. ヘンダーソンの枠組みを使った看護過程紙面演習 事例展開－データベースへの情報整理（全体像） 5. 事例展開－アセスメント：呼吸（情報の整理） 6. } 事例展開－アセスメント：呼吸（情報の分析・解釈、看護診断） 7. } 8. 筆記試験 9. } 事例展開－アセスメント：姿勢・移動（情報の分析・解釈、看護診断） 10. } 11. } 事例展開－看護計画：呼吸・姿勢・移動 12. } 13. 事例展開－実施記録・評価 14. 実習記録用紙の記入方法のまとめ 15. 看護過程紙面演習のまとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>リンダJ.カルペニート＝モイエ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	臨床看護技術演習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 通年	
区分	専門分野 I						
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	6 / 15時間
担当者	加賀爪美佳	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	3 / 15時間
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	4 / 15時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	2 / 15時間
授業の目的・ねらい 生活援助技術を取り上げ、思考過程と根拠に基づいた看護実践が実施できるように演習を行い、看護実践力の育成を図る							
学生の到達目標 1. 紙面事例の対象に必要な援助をアセスメント、立案し、科学的根拠に基づいて安全・安楽に配慮して援助を実施できる。							
授業概要（授業計画） 1. 入院してくる患者を想定したベッドメイキング(担当 長野恵美) 2. 持続点滴療法中の患者の和式寝衣交換(担当 加賀爪美佳) 3. 左片麻痺のある患者のバイタルサイン測定(担当 山本紀子) 4. 左上下肢に麻痺のある患者の車いす移乗・移動(担当 岡崎弘美) 5. 健康診査に訪れた患者のフィジカルアセスメント(担当 山本紀子) 6. 就床患者の室内療養環境を整える(担当 岡崎弘美) 7. 左上下肢に麻痺のある患者の足浴(担当 加賀爪美佳) 上記7項目についてそれぞれ実技チェックを実施							
教科書 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 最新版							
参考書 適宜紹介							
成績評価方法 出席率、授業態度、演習記録、技術チェックなどで評価する。							

科目名	地域・在宅看護概論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 前期	
区分	専門分野							
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務 経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>日本の人口は減少していく傾向にあり、超高齢化の到来が社会的課題となっている。この現状をふまえ高齢者を含めたすべての人々が地域の中で暮らしていく在宅看護が求められる。そこで在宅看護の特徴や基盤を学び、対象者を多角的・総合的にとらえて学ぶ。さらに在宅療養の場における家族を理解し、家族への看護について幅広く学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の在宅看護の変遷とその社会背景および基本理念について説明できる。 2. 在宅看護の特徴と在宅看護の基盤について説明できる。 3. 在宅療養者について、ライフサイクル・健康レベル・疾患・生活の場からとらえ、理解することができる。 4. 在宅療養の場における家族について、介護力のアセスメント、家族関係の調整等の看護が理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の背景と特徴 2. 在宅看護の基盤 3. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 4. 在宅看護を展開するための基本理念と倫理 5. 在宅看護の対象者 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 6. 在宅療養の場における家族のとらえ方と家族への看護 7. 在宅看護における危機管理・安全管理 8. 筆記試験、まとめ 								
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 最新版</p>								
<p>参考書</p> <p>適時、プリント配布</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	暮らしを支える看護技術	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 後期	
担当者	加藤朋子	資格	保健師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護や介護を要する在宅療養者は近年増加をたどり、訪問看護等保健医療福祉が果たす役割は大きい。そのため在宅における看護の実践について、訪問看護ステーションを中心に学ぶ。また、在宅療養の場では、起こり得る事故を予防する視点が必要となる。そこで日常生活と災害時における危機管理と安全管理について学ぶ。</p> <p>高齢者や障害を持つすべての人々が、地域で生活を継続していくことができるための体制や制度について学習する。特に今治市における地域への特性をふまえ、制度と社会資源について学びを深め、在宅看護の対象とその家族を理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の目的・制度・実施期間・法的責任を理解し、訪問看護師の役割を説明できる。 2. 訪問看護ステーションとサービス利用迄の流れや展開について理解できる。 3. 在宅看護における日常時と災害時の危機管理、リスクの特徴を理解し予防策について説明できる。 4. 地域包括ケアシステムの概要と看護職の役割が説明できる。 5. 地域包括システムにおける多職種・多機関連携の意味が理解できる。 6. 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメントについて理解できる。 7. 地域療養を支える制度の概要について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><加藤朋子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステム 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機能連携 3. 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント 4. } 社会資源の活用 5. } 医療保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度、生活保護制度 障害者に関連する法律 6. } 難病法 7. } 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 高齢者施策 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 最新版</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	地域・在宅看護の実際	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期	
担当者	西野憲子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅療養支援においては、生活ケアの他に医療的ケアも必要となることが多い。そのため在宅における医療管理と生活支援の方法と看護について学ぶ。</p> <p>また事例では『脳卒中の後遺症』を通して医療依存度の高い在宅療養者と家族への援助を学ぶ。さらに訪問看護を実際に行うための技術について学び、演習を通して訪問看護師の訪問看護導入のプロセス行動を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における生活ケアと医療的ケアの技術について説明できる。 2. 訪問看護師の訪問看護単入のプロセス行動を理解できる。初回訪問の演習を通して、適切に訪問看護師の行動がとれる。 3. 事例の対象者と家族への援助について考えをまとめることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活ケアと医療的ケア 2. 在宅経管栄養法、胃瘻、在宅中心静脈栄養法 3. 在宅自己導入・膀胱留置カテーテル管理・ストーマ管理 4. 褥瘡予防・在宅酸素療法 5. 訪問看護における医療保険と介護保険の調整 6. ケアマネジメント（サービスの調整） 在宅看護の動向と今後の発展 7. 在宅看護過程演習 初回訪問（グループワーク、演習） 訪問看護師としてのマナー 訪問記録看護 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 最新版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>押川真喜子監修 新訂版 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 最新版</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	多職種協働と看護	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 後期	
区分	統合分野						
担当者	池内貴美	資格	理学療法士	実務経験	有・無	時間	5 / 15時間
担当者	永井真智子	資格	主任介護支援専門員 認定社会福祉士	実務経験	有・無	時間	5 / 15時間
担当者	武本共栄	資格	認定社会福祉士 主任介護支援専門員	実務経験	有・無	時間	5 / 15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>地域での暮らしの継続を支援していくために、多職種連携のあり方を学び、エビデンスに基づいた地域における看護実践ができるようにつなげていく。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携と地域連携の意味が理解できている。 2. 在宅看護で連携する主な保健・医療・福祉関連職種とその法律上の業務内容について理解できる。 3. 地域・在宅における事例検討会の意義と内容について、海外と日本の実際について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護で連携する職種と法律上の業務内容 2. 行政機関との連携 3. 地域包括支援センターとの連携 4. 居宅介護支援事業所との連携 5. 住民との連携と見守り・SOSネットワーク 6. 専門職以外の人々との連携、地域における複合的な連携 7. 地域・在宅における事例検討会の意義と進め方 8. 筆記試験・課題レポート等 							
<p>教科書</p> <p>プリント配布</p>							
<p>参考書</p> <p>その都度、紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験</p>							

科目名	多職種協働演習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	2年 後期	
区分	統合分野						
担当者	岡崎弘美 加賀爪美佳 長野恵美	資格	看護教員	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>検討事例に関して、対象者と家族のアセスメントができ、ディスカッションを通して多職種協働の実際を体験し、連携していく能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種の資格や業務内容等を述べるができる。 2. 検討事例の問題点や解決策に必要な支援について考えることができる。 3. 検討事例について、他学校の学生とディスカッションができる。 4. ディスカッション後に、学んだ内容や多職種の中の看護師の役割についてまとめることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種に関する調査学習 2. 検討事例に関する調査学習 3. 4. } 検討事例について他学校の学生とのディスカッション 5. } (地域性、対象者と家族の特徴) 6. } (対象者と家族のニーズ、問題点の優先順位) 7. } (必要な支援と社会支援) 8. } (関連する機関とその連携方法) 7. ディスカッション後の振り返り学習 8. レポートおよびグループワークまとめ 							
<p>教科書</p> <p>必要な資料を各自用意</p>							
<p>参考書</p> <p>その都度、紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>レポート内容・出席状況・グループワーク等</p>							

科目名	成人看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 前期	
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人看護学の理念を基礎として、成人期の対象の特性及び多様な健康問題について理解を深める。成人期の生活に直結した生活習慣・職業・ストレス等に関連した健康問題を取り上げ、現代社会や現代人のライフサイクルの特徴と照らし合わせて検討する。また、成人期における健康の破綻による対象や家族への影響、回復に向けての看護者の役割と、その方法の基本を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の定義と成人の特徴、成長発達の特徴について理解できる。 2. 成人の生活に焦点を当てて、成人期の健康問題が理解できる。 3. 成人への看護に有用な概念について理解できる。 4. 成人期の危機と適応、自己効力に関する理論を学び、その介入方法が理解できる。 5. 成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）を学び、事例の学習看護のグループワークを行い、理解を深め、学びを発表できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人と生活、生活と健康 2. 成人への看護 アプローチの基本 3. ヘルスプロモーションと看護 4. 健康をおびやかす要因と看護 5. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 6. 慢性病とともに生きる人を支える看護 7. 障害がある人の生活とリハビリテーション 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	成人看護方法論 I	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野		講義			2	1年 通年
担当者	杉野友香	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	佐々木寿	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	村上ゆかり	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	村上かおり	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間

授業の目的・ねらい

周手術期にある成人の看護では、手術を受ける患者の看護を取り上げ、周手術期の正常な経過を理解し健康回復への援助方法について学ぶ。
 呼吸器疾患を持つ患者の病態に基づいた看護活動の展開や、検査や治療・処置を受ける患者への援助を学ぶ。
 特に呼吸器疾患のもつ患者の症状は心身に与える影響も大きく、身体面その他精神面も踏まえた総合的な看護を学ぶ。
 消化器系の機能障害のある患者の看護では、消化・吸収機能と栄養代謝機能について特徴的な症状に対する看護のあり方、消化器系特有の検査に対する看護のあり方について理解する。
 また、健康を障害された対象に対する看護過程の展開について学ぶ。
 成人看護方法論では機能障害別に健康を障害された対象に対する看護について学ぶ。
 循環器疾患患者の看護では、代表的疾患として虚血性心疾患・心不全を取り上げ、健康回復へ向かうための看護について理解する。また、心臓リハビリテーションとして、段階に応じた関わり方について学ぶ。

学生の到達目標

1. 周手術期の対象がたどる一般的な経過と各期の特徴について理解できる。
2. 術後合併症の発生機序と予防にむけた看護について理解できる。
3. 主な疾患により手術を受ける患者の術前から術後における看護について理解できる。
4. 呼吸器機能の観察の技術、呼吸器症状がもたらす影響について説明できる。
5. 主な呼吸器疾患患者の検査・治療とその看護について理解できる。
6. 消化器系の観察の技術・消化器症状がもたらす影響について説明できる。
7. 主な消化器疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。
8. 循環器機能の観察の技術・循環器症状がもたらす影響について説明できる。
9. 主な循環器疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<杉野友香>

1. 周手術期にある成人の看護の特徴と課題
2. 周手術期の看護（術前後）
3. 術後合併症の予防
4. 呼吸器系の疾患により手術を受ける患者の看護
5. } 消化器系の疾患により手術を受ける患者の看護
6. }
7. 内分泌系の疾患により手術を受ける患者の看護
乳腺の疾患により手術を受ける患者の看護
8. 筆記試験、まとめ

<佐々木寿>

1. 呼吸器疾患の動向
2. 呼吸器疾患の症状と看護
3. 在宅酸素療法、人工呼吸器の看護、胸腔ドレナージ管理
4. 呼吸器疾患の手術療法と看護
5. 肺炎、結核、気管支喘息患者の看護
6. 慢性呼吸不全患者の看護
7. まとめ
8. 筆記試験・まとめ

<村上ゆかり>

1. 患者の身体的、心理・社会的特徴と看護の役割
2. } 消化・吸収機能障害のある患者の症状と看護
3. }
4. 消化・吸収機能検査・治療を受ける患者の看護
5. 食道疾患、胃・十二指腸潰瘍の患者への看護
6. 潰瘍性大腸炎・クローン病・イレウスの患者への看護
7. 肝臓疾患・膵臓疾患の患者への看護
8. 筆記試験・まとめ

<村上かおり>

1. 循環機能の検査と観察
2. 虚血性心疾患患者への看護
3. ペースメーカー装着時の援助
4. 心臓リハビリテーション
5. 循環器疾患の手術前後の看護
6. 心不全患者の看護
7. 心臓弁膜症の患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院	最新版	
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護各論	医学書院	最新版	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [2]	呼吸器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [5]	消化器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [3]	循環器	医学書院	最新版

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期
区分	専門分野		講義・演習		2	1年 後期
担当者	和田聖子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 11 / 62時間
担当者	西内美智子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 7 / 62時間
担当者	馬越千恵	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 9 / 62時間
担当者	村上奈津	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 5 / 62時間
担当者	稲本由佳	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 15 / 62時間
担当者	美藤 咲	資格	看護師	実務経験	有・無	時間 15 / 62時間

授業の目的・ねらい

血液・造血器疾患患者の看護では白血病・悪性リンパ腫、内分泌・代謝疾患患者の看護ではバセドウ病・糖尿病・高脂血症・肥満症・痛風・高尿酸血症、アレルギー・膠原病疾患患者の看護ではアトピー性皮膚炎・SLE、SCC、RA等を取り上げ、健康回復へ向かうための看護について学ぶ。

透析治療や泌尿器科疾患治療を受ける患者の看護を学び、合併症の予防や副作用への対応や患者の不安、セルフケアへの援助など看護過程を通じて学習する

高齢社会、疾患の発症状況をふまえ、脳・神経疾患領域の看護にかかわってくる問題や課題を学ぶ。

脳・神経疾患に罹患した場合にたどる経過とその特徴や問題点を学び、経過に対応した看護を学ぶ。

脳神経疾患患者の看護では、特徴的な症状に対する看護のあり方、脳神経疾患特有の内科的治療・外科的治療に分けて、健康回復への援助方法について学ぶ

運動器疾患はその人に及ぼす影響が大きく、その治療は長期にわたることも多くまた患者自ら参画していくことも求められてくる。そこで、運動器疾患患者の看護では、特に手術を受ける患者の看護を取り上げ、術後の経過を理解し健康回復への援助方法について学ぶ。

学生の到達目標

1. 免疫・血液・造血器、膠原病、内分泌・代謝機能の観察の技術と、それらの機能の障害がもたらす影響について説明できる。
2. 主な免疫・血液・造血器、膠原病、内分泌・代謝疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。
3. 感染症の定義、種類、症状等を理解し、感染経路別予防策について説明できる。
4. 腎機能・排尿機能障害のある患者の看護の原則を理解し、慢性腎不全の患者への看護過程が展開できる。
5. 脳・神経機能の観察の技術、脳・神経障害がもたらす影響と問題点について説明できる。
6. 主な脳・神経系の疾患をもつ患者への検査、治療、看護について理解できる。
7. 運動機能の観察の技術、運動機能障害がもたらす影響と問題点について説明できる。。
8. 主な運動機能の疾患をもつ患者への検査・治療看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<和田聖子>

1. } アレルギー疾患患者の看護
2. }
3. } 膠原病疾患患者の看護
4. }
5. 血液造血器疾患患者の看護、免疫機能に障害のある患者の看護
6. 筆記試験・まとめ

<西内美智子>

1. 内分泌代謝機能の観察とアセスメント
2. } 内分泌機能障害のある患者の看護
3. } グループワーク、アセスメントと看護のまとめ
4. 筆記試験・まとめ

<馬越千恵>

1. 感染症の観察とアセスメント
2. } 感染経路別予防策
3. } スタンダードプリコーション
4. スタンダードプリコーション演習
5. 筆記試験・まとめ

<村上奈津>

1. } 腎機能・排尿機能障害の患者の看護
2. } 慢性腎不全の患者への看護のグループワーク
3. 筆記試験・まとめ

<稲本由佳>

1. 脳・神経機能障害の観察とアセスメント
2. } 脳・神経機能障害で生じる症状と看護
3. } 頭蓋内圧亢進症状の程度原因とその看護
4. 薬物療法をうける患者の看護
5. 脳血管障害患者の看護
6. 筋ジストロフィー、髄膜炎の患者の看護
7. 筋ジストロフィー、髄膜炎の患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

<美籐 咲>

1. 運動機能障害の観察とアセスメント
2. 運動機能障害の症状と看護
3. 検査・診断をうける患者の看護
4. } 運動器疾患の手術をうける患者の看護
5. } 運動器の主な疾患をもつ患者の看護
6. } 運動器の主な疾患をもつ患者の看護
7. } 運動器の主な疾患をもつ患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[4] 血液・造血器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[6] 内分泌・代謝	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[11] アレルギー	膠原病 感染症	医学書院 最新版
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学	[2] 基礎看護技術 I	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[8] 腎・泌尿器	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[7] 脳・神経	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[10] 運動器	医学書院	最新版

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 前期	
担当者	阿部 愛	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象と家族の特徴、および支える人々を理解できる。 2. 加齢に伴う変化と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の視点からの老年者の理解 老年期の発達と成熟 2. 高齢者の多様性 加齢に伴う変化 3. 高齢者にとっての健康 高齢者と家族 4. 高齢者と社会システム 高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護 5. 高齢者とQOL 老年看護活動の特性 6. 老年看護における倫理的課題 老年看護に求められるものとは 7. 高齢者の生理的特徴 高齢者のアセスメント 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	老年看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 後期	
区分	専門分野						
担当者	越智耕平	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	秋山真由美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

高齢者の疾患の特徴を理解し、主要な症候と起こりやすい問題について学ぶ。
検査・治療をうける高齢者への看護を理解する。

学生の到達目標

1. 高齢者の疾患の特徴、主要な症候と起こりやすい問題について理解を深める。
2. 検査・治療をうける高齢者への看護を理解できる。

授業概要（授業計画）

<越智耕平>

1. 老年症候群—主要な症候と起こりやすい問題
 - 1) おもに急性疾患に付随する症候
意識障害、せん妄、熱中症、脱水症、発熱
 - 2) おもに慢性期疾患に付随する症候
腰背部、やせ、手足のしびれ、浮腫、睡眠障害、抑うつ
 - 3) おもにADL低下に合併する症候
転倒・骨折、排尿障害、便秘、嚥下障害、入浴事故
4. 高齢者の疾患の特徴
 - 1) 認知症
 - 2) 精神・神経系疾患
 - 3) 循環器系の疾患
 - 4) 呼吸器系の疾患
 - 5) 消化器系の疾患
 - 6) 内分泌・代謝系の疾患
 - 7) 膠原病
 - 8) 血液疾患
 - 9) 腎・泌尿器系の疾患
 - 10) 運動器の疾患
 - 11) 皮膚、感覚器、歯・口腔の疾患
 - 12) 感染症
8. 筆記試験、まとめ

<秋山真由美>

1. 検査・治療をうける高齢者への看護ケア
2. 薬物療法と看護ケア
3. 栄養ケア・マネジメント
4. 薬物療法と看護ケア
5. 手術療法と看護ケア
6. リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護
7. まとめ
8. 筆記試験

教科書

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態、疾患論 医学書院 最新版
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 最新版

参考書

プリント

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 後期
区分	専門分野						
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 終末期にある高齢者と家族の看護を理解する。 老年期の基礎的な疾患の事例を通して看護過程の展開の技術について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能を整える看護を理解できる。 2. 終末期にある高齢者と家族の看護を理解できる。 3. 老年期の基礎的な疾患の紙面事例を使って看護過程の展開ができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><岡崎弘美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能を整える看護の展開 日常生活を支える基本動作と看護ケア ・生活の基本となる日常生活動作 ・転倒 ・廃用症候群 2. 生活の基本となる日常生活動作 - 食事と看護ケア 3. 生活の基本となる生活日常動作 - 排泄と看護ケア、清潔と看護ケア 4. 生活の基本となる日常生活動作 - 生活リズムと看護ケア コミュニケーションと看護ケア 5. 認知機能の障害に対する看護 - 認知症 6. 終末期にある高齢者と家族の看護、タクティールケア 7. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 8. 筆記試験、まとめ <p><山本紀子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例を用いた看護過程の展開 - 認知症、大腿骨頸部骨折患者 2. 情報の整理、ニードの充足状態 3. アセスメント 4. 関連図作成、問題の明確化 5. 看護計画立案 6. 短期目標達成に向けた、ある1日の行動計画案 7. 評価・考察の方法、看護計画の修正 8. 看護過程のまとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>巻田ふき・矢部弘子編集 老年者の生活と看護 中央法規 1996 鈴木みずえ他 高齢者の転倒ケア—予測・予防と自立支援のすすめ方 医学書院 2001 五島シズ・水野陽子 痴呆性老人の看護 医学書院 1998 千田徳子監修 臨床老年看護論 生きている現場 日本看護協会出版会 2001 奥野茂代編集 老年看護技術 - アセスメントのポイントとその根拠 - ヌーヴェルヒロカワ 2003</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	小児看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 前期	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>少子高齢社会に伴い、子どもを取り巻く社会環境は急激に変化している。その中で、子ども達はどのような大人への成熟過程を歩んでいるのか、子どもの成長・発達、及び社会や周囲の状況を理解するなかで学ぶ。</p> <p>子どもの発達段階に応じた世話と健康増進のための子どもと家族への看護を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と目的について理解できる。 2. 現代の子どもを取り巻く社会環境（母子保健指標も含む）が理解できる。 3. 小児看護を実践する中で、留意することの権利を理解することができる。 4. 成長・発達の一般的原則や影響する要因について理解できる。 5. 乳児期から思春期の子どもの身体的成長・機能的発達・心理社会的発達について理解できる。 6. 子どもに適した身体発育の評価・心理社会的発達の評価の必要性を理解し、評価方法を選択できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象 2) 小児医療、小児看護の変遷 2. 3) 子どもの人権と看護 <ol style="list-style-type: none"> 4) 小児看護に携わる看護師の役割 3. 子どもの成長と発達について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長・発達の原則 4. 2) 小児各期の成長・発達 <ol style="list-style-type: none"> 3) 成長・発達の評価 5. 小児各期に応じた養育と健康増進のための看護を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児・乳児 6. 2) 幼児・学童 7. 3) 思春期 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>小児看護学 「小児の発達と看護」 メディカ出版 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民衛生の動向</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもは発達していく存在であり、年齢や健康レベルにかかわらず権利を行使することが主体である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していくには、科学的な根拠に裏付けされた看護実践能力を習得する必要がある。</p> <p>さまざまな状況にある子どもと家族に対し、常に最善の利益を守るための行動が重要であることを学び、プレパレーションの重要性の理解につなげる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児や家族に援助を実施するうえで、常に最善の利益を守るための行動が重要であることが理解できる。 2. それぞれの小児看護技術に必要な、基本的な知識を身につけることができる。 3. 小児看護におけるプレパレーションの重要性、具体的な方法について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査や処置を受ける子どもと家族 2. 2) 発達に応じたプレパレーション 3. 3) バイタルサインの測定 <ol style="list-style-type: none"> 4) 身体計測 5) フィジカルアセスメント 4. 6) 採血 <ol style="list-style-type: none"> 7) 採尿 5. 8) 骨髄穿刺 <ol style="list-style-type: none"> 9) 腰椎穿刺 6. 10) 与薬 <ol style="list-style-type: none"> 11) 注射 7. 12) 輸液療法 8. 9. 10. } 紙上事例による看護過程の展開 11. } 1) 気管支喘息患児の看護 12. } 13. 14. 15. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護学 「小児看護技術」メディカ出版 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>随時、紹介する。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記グループワーク、試験などで評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 2学期	
区分	専門分野							
担当者	手塚優子	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 33時間	
担当者	正岡朝香	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間	
担当者	松岡 恵	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間	

授業の目的・ねらい

小児の疾病や障害について、病態生理を正しく理解し、小児に特徴的な症状と反応及び、診断法と治療について学ぶ。

幅広い小児の疾患については、機能障害別に代表的な疾患を取り上げ学ぶ。

小児の疾病や障害の病態生理、症状と反応、診断法と治療についての理解をもとに、健康を障害された子どもとその家族への看護について障害別に学ぶ。

幅広い小児の看護については、機能障害別に代表的な疾患に対する看護について学ぶ。

学生の到達目標

1. 小児の主な疾患・障害の病態、検査・治療とその看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<手塚優子>

1. 染色体異常・胎内環境 により発生する先天異常と看護
2. 新生児の疾患
3. 代謝性疾患
4. 内分泌疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患
5. 免疫疾患
6. 感染症
7. 呼吸器疾患
8. 循環器疾患
9. 消化器疾患
10. 血液・造血器疾患
11. 悪性新生物
12. 腎・泌尿器および生殖器疾患
13. 神経疾患（けいれん）
14. 吃音
15. 筆記試験、まとめ

<正岡朝香>

1. 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患をもった小児の看護
呼吸器疾患をもった小児の看護
2. 消化器疾患をもった小児の看護
血液・造血器疾患をもった小児の看護
3. 悪性新生物のおもな疾患をもった小児の看護
腎・泌尿器系疾患をもった小児の看護
4. 眼疾患をもった小児の看護
耳鼻咽喉疾患をもった小児の看護
子どもの虐待と看護
5. 筆記試験、まとめ

科目名	母性看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 前期	
担当者	青野千秋	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>母性の特性を生理学的、病理学的に理解し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病について学ぶ。</p> <p>母性の健康問題に関連する諸問題、それら諸問題から母性を守る医療・保険制度の概要について学ぶ。</p> <p>母性各期にある対象の特性について理解を深め、母性各期の精神面・生理面の特徴とその保健について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の種々な定義を理解し、母性とは何か自分の考えをもつことができる。 母性各期にある対象を女性の一生から特徴をとらえ、健康と看護について理解できる。 母性各期における諸問題を理解し、グループワークで学びをまとめることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性とは 女性の一生について セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ 母子保健統計、歴史的変遷と現状 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、家族 女性のライフステージ各期における健康と看護 母性看護における問題と看護のグループワーク 性感染症と予防、家族計画 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>吉沢豊予子編著 女性の看護学 母性の健康から女性の健康へ メヂカルフレンド社 氏家幸子監 母子看護学原論 廣川書店 村本淳子・森明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版株式会社 国民衛生の動向2021/2022年 財団法人 厚生統計協会</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	母性看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期
担当者	吉良佳世	資格	医師	実務経験	有・無	時間 15 / 33時間
担当者	谷村陽子	資格	助産師	実務経験	有・無	時間 9 / 33時間
担当者	五味貴子	資格	助産師	実務経験	有・無	時間 9 / 33時間

授業の目的・ねらい

現在、医療の高齢化と進歩に伴い、母性看護学は出生前から生じる遺伝及び不妊の問題、出生前診断や倫理的問題があげられる。このためリプロダクティブケアについて学びを深め、女性・母親・胎児・子ども、そしてパートナーの男性を含んでとらえる。

また、妊娠・分娩・産褥及び新生児の整理、正常と異常とそれらの治療について学ぶ。妊娠期の妊婦に生じる身体的心理、社会的変化を理解することは母性看護の基本となる。その上で妊娠および胎児のアセスメントと看護について学ぶ。

分娩期と産褥期における経過と変化を理解し、アセスメントと看護について学ぶ。

新生児の看護では、生理的・身体的特徴を理解し、新生児の健康状態のアセスメントと看護を学ぶ。

学生の到達目標

1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて遺伝面・不妊治療からとらえ、それらの問題と看護について理解できる。
2. 妊娠、分娩、産褥及び新生児の生理について学び、経過の正常・異常がわかる。
3. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理と治療について理解できる。
4. 妊娠期にある妊婦の生理的、心理的変化とその特徴及び、対象とその家族に対する看護を理解できる。
5. 妊娠の経過と胎児の発育とその生理についてアセスメントでき、看護について理解できる。
6. 分娩期の経過と産褥の身体的、心理的変化についてアセスメントでき、看護について理解できる。
7. 産褥期の経過と褥婦の身体的、心理的、社会的変化についてアセスメントでき、看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<吉良佳世>

1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア
2. 妊娠・不妊治療
3. 妊娠の異常と治療
4. 分娩の異常と治療
5. 産褥の異常と治療
6. 新生児の異常と治療
7. 女性生殖器疾患と治療
8. 筆記試験・まとめ

<谷村陽子>

1. 妊娠期の生理・心理
2. 胎児の発育とその生理
3. 分娩期における看護
4. 異常妊娠・異常分娩時の看護
5. 筆記試験・まとめ

<五味貴子>

1. 新生児の生理とアセスメントとグループワーク
2. 新生児の看護とグループワーク
3. 産褥経過とアセスメントとグループワーク
4. 産褥期の看護とグループワーク
5. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 最新版
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 最新版

参考書

石村由利子編 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 最新版

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母性看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 後期	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象者を支える援助のあり方を学び、基本的な援助技術を習得する。 母性看護の対象者に対する対象把握について、情報収集・アセスメント技術の特性を理解できる。 母性看護における看護展開を、ウェルネス看護診断の考え方をを用いて紙面上での事例展開を行う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の対象者である妊婦、褥婦の情報収集、アセスメントができる。 新生児の沐浴と計測が安全に配慮して、正確に実施できる。 褥婦と新生児のアセスメントと看護計画の立案、実施の評価ができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><長野恵美></p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦の日常生活に関するアセスメント（グループワーク発表） 出産準備教育（イメージリー）、記録の書き方 標準体重と肥満度の計算 沐浴、新生児の計測の原則・方法・注意点 沐浴（学内実習）・調乳 新生児の計測 筆記試験、まとめ <p>事例による看護過程の展開（正期産で分娩した褥婦正期産で出生した新生児）</p> <ol style="list-style-type: none"> データベースⅠ－（１）（２）の意味と記入方法について アセスメント（ウェルネス看護診断）の方法について 看護計画（褥婦）（新生児） 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 最新版 看護過程：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>石村由利子編 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 最新版</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	精神看護学概論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	1年 前期	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神看護学の基本的な考え方について理解する。 精神看護の対象を全ライフサイクルとし、人の精神的成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機について学ぶ。 精神の健康と精神看護の役割について理解するとともに、精神保健では健康な生活の保持増進に必要な精神保健活動の概要を学ぶ。 人権擁護、精神医療・看護の歴史の変遷から、精神保健福祉についての理解を深め、精神科看護に求められる倫理的諸問題を理解する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的な考え方について理解できる。 2. 精神看護の対象を全ライフサイクルととらえ、人の精神的成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機について学ぶ。 3. 精神の健康と精神看護の役割について理解するとともに、精神保健では健康な生活の保持増進に必要な精神保健活動の概要を理解できる。 4. 人権擁護、精神医療・看護の歴史の変遷を学び、精神保健福祉についての理解を深め、精神科看護に求められる倫理的諸問題を考えることができる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学を学ぶ意義 2. 心の健康（精神の健康）とは 脳構造と認知機能 精神の構造と働き（精神力動論、対人関係論、集団力動論） 3. 精神の発達に関する考え方 ライフサイクルと精神保健（発達理論） 4. 家族と精神の健康 5. 危機理論 ストレスと反応、および対処行動 6. 精神保健医療と歴史の変遷 7. 精神科看護に求められる倫理 8. 筆記試験、まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 最新版</p>								
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	精神看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期													
区分	専門分野		講義		1	1年 前期													
担当者	越智寿治	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	30時間												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神障害の多様性を状態像でとらえ、経過に基づく診断、治療とその副作用について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要精神疾患について、病態、診断、検査及び治療について学ぶ。 2. 精神障害を有する患者の症状・状態・予後を理解できる。 3. 生活の場における主な精神障害者の保健福祉と、地域精神医療資源について理解できる。 																			
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要精神疾患について、病態、診断、検査及び治療を理解できる。 2. 精神障害を有する患者の症状・状態・予後を理解できる。 3. 生活の場における精神障害者の保健医療福祉と、地域精神医療資源について理解できる。 																			
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 暮らしの場と精神（心）の健康、現代社会と精神（心）の健康 2. } 3. } 精神障害を持つ人の抱える症状と診断のための検査 4. } 診察・障害の診断基準、障害の分類、意識障害、感覚と知覚 5. } 意識障害、自我意識の障害、睡眠障害 6. } DVD『クワイエットルームへようこそ』 7. } 統合失調症、双極性障害、PTSD、摂食障害、パーソナリティ障害 8. } 9. } 電気ショック療法、リハビリテーション看護 10. } 11. } 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 12. } 13. } 精神障害を持つ人を守る法・制度 14. } 15. 筆記試験・まとめ 																			
<p>教科書</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護学 [1]</td> <td>精神看護の基礎</td> <td>医学書院</td> <td>最新版</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護学 [2]</td> <td>精神看護の展開</td> <td>医学書院</td> <td>最新版</td> </tr> </table>								系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院	最新版	系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院	最新版
系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院	最新版														
系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院	最新版														
<p>参考書</p>																			
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>																			

科目名	精神看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野		講義・演習			1	1年 後期
担当者	桑原幸宏	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神看護学概論で学んだ、精神の健康と成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機に関する理解、及び精神看護方法論Ⅰでの主要精神疾患についての理解をもとに、精神を障害された個人と家族を理解し、対象に応じた看護の提供について学ぶ。</p> <p>精神の健康と保持・増進し、人々の日常生活を整えるための援助技術、および精神症状や精神状態によって影響された生活を整えるための看護、個人とその家族、状況に応じた援助方法</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を障害された個人と家族を理解し、対象に応じた看護の提供のしかたを理解できる。 2. 精神症状や精神状態によって影響された患者の生活を整えるための看護を理解できる。 3. 紙面事例を通して精神科看護過程の展開方法を理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><桑原幸宏></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療・看護の対象者 精神（心）を病むということ 2. 精神障害をもつ人と「患者－看護師」関係の構築 3. 精神障害をもつ人への看護援助の展開 4. 患者による自己管理 5. 精神障害をもつ人への看護 6. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 7. 我が国の精神看護の発展 8. 筆記試験、まとめ <p><長野恵美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オレム・アンダーウッドセルフケア理論の概要（理論と枠組み） 2. セルフケアレベルと看護の視点、統合失調症患者の看護の視点 3. 情報収集のしかた、観察とアセスメントの視点、計画立案・評価のしかた 4. } 5. } 6. } 7. } 8. 看護過程展開のまとめ <p>紙面による事例展開 - 統合失調症患者</p>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>竹尾恵子 超入門事例で学ぶ看護理論 学研 岩瀬信夫他 ケーススタディ精神看護診断ガイド 廣川書店 2002</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	災害看護	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	2年 前期	
担当者	徳安倫子	資格	看護師	実務 経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>災害発生時に看護職者として活動できるために、災害や災害看護について知り、非日常である災害時の対応を理解する。 災害時に必須の技術として、安全対策、情報収集と発信、トリアージ、応急処置、搬送、こころのケアについて学ぶ。 身近で起きた災害時の医療・看護支援活動を振り返り、グループワークする。 諸外国との国際協力、活動内容について知り、災害看護の役割を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害発生時に看護職者として活動できるために、災害や災害看護について知り、非日常である災害時の対応が理解できる。 2. 災害時に必須の技術として、安全対策、情報収集と発信、トリアージ、応急処置、搬送、こころのケアについて理解できる。 3. 身近で起きた災害時の医療・看護支援活動について、グループワークを通して深められる。 4. 諸外国との国際協力、活動内容について知り、災害看護の役割を学ぶ。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の基礎知識 求められる対応 災害に関する法律・制度 2. 災害時の支援体制・医療体制 災害サイクル各期の医療と看護支援 3. 災害の種類と災害時の疾病構造 4. 疾病の具体例・感染症 災害関連死 5. 災害時の技術・看護 1) 安全対策 2) 情報収集と発信 3) 心のケア 6. トリアージ 救急処置の原則・搬送 7. グループワーク、発表 8. 筆記試験、まとめ 								
<p>教科書</p> <p>看護学テキスト 統合と実践 災害看護 学研 最新版</p>								
<p>参考書</p> <p>適宜紹介</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	医療安全	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	1年 前期	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30 / 30時間
授業の目的・ねらい 安全な医療ケアを提供するために、医療事故を防止するための理論や根拠を踏まえ、正しい知識・技術を現場に即した形で習得し、守るべきルールから逸脱しないことを目指す。 准看護師免許を持ち現場経験があることを生かし、事故分析方法ができることを目標に、看護実践で正しく活用できるように知識・技術を統合的に学ぶ。							
学生の到達目標 1. 安全な医療ケアを提供するために、医療事故を防止するための理論や根拠を踏まえ、正しい知識・技術を現場に即した形で習得し、守るべきルールから逸脱しないことを理解できる。 2. 准看護師免許を持ち現場経験があることを生かし、事故分析方法ができることを目標に、看護実践で正しく活用できるように知識を統合できる。							
授業概要（授業計画） 1. 医療安全の歴史と医療、看護を取り巻く状況、医療安全の概念の導入。 2. 医療安全に対する最近の動向・考え方（医療安全と看護の責務） 3. ミスを防ぐための対策（事故発生のメカニズムと防止対策） 4. } 診療の補助業務の伴う事故防止（グループワーク） 5. } 6. 医療安全のマネジメント 7. 事故後の対応 8. 実習における医療安全とは - 体位・姿勢の保持・移動、身体拘束 9. 医療環境の整備、保清・整容、食事介助 10. 医療関連感染（HAI）予防策 11. 個人情報の取り扱い、患者からのセクシャルハラスメント・暴力 12. インシデント・アクシデント後の学生のフィードバックと対応 13. 看護の現場で起こりうる医療事故 - 薬剤の取り違い、処方箋確認不足、輸液量 14. 多重業務のチェック漏れ、技術習熟度の確認不足、ルールの逸脱 コミュニケーション不足 15. 筆記試験・まとめ							
教科書 看護学テキスト 統合と実践 医療安全 学研 最新版							
参考書 川村治子 医療安全ワークブック 医学書院							
成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。							

科目名	看護研究	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習		1	2年 前期	
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護における研究は、人間の健康問題に焦点を当て、生活者として対象を捉え、看護師が科学的実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成するために非常に重要である。将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し、臨床で活用できる能力を身につけることをねらいとする。また、看護の事象を科学的にとらえ分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の概要を学び、理論と実践の結合をはかることができる。 2. ケーススタディレポートを作成することを通して、看護研究への関心と理解を深め、研究への取り組みと成果の活用に必要な基本的知識の習得と研究的態度を養うことができる。 3. 研究から得られた結果を正しく理解するための知識を有し、必要な知識を自ら探索することができる。 4. 看護に関連する研究論文を批判的に読み、看護における有用性を批評することができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の意義と目的 2. 看護研究における倫理 3. 研究プロセスの概要 4. 文献検索・統計的データ処理の仕方 5. 研究成果の公表と評価 6. ケーススタディとは 7. ケーススタディのまとめ方 8. 筆記試験 ケーススタディレポート作成と発表 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 最新版</p>							
<p>参考書</p> <p>松本孚編集 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 最新版</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験、ケースレポートなどで評価する。</p>							

科目名	統合技術演習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	2年 通年
区分	統合分野						
担当者	岡崎弘美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	2 / 15時間
担当者	加賀爪美佳	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	2 / 15時間
担当者	山本紀子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	9 / 15時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	2 / 15時間

授業の目的・ねらい

人間を統合された存在として幅広くとらえ、これまで学んだ知識・技術を医療安全として関連させて、各領域、臨床の場で遭遇することが多い事例を用いて、健康状態や障害の状態、援助の優先順位の決定、時間管理などを統合した技術演習を行う。

学生の到達目標

1. 設定事例の対象に必要な看護をアセスメントし、適切な援助が実施できる。
2. 対象に応じて適切なコミュニケーション技術を用いて援助ができる。
3. 多重課題に対して適切な優先順位の決定、時間管理ができる。

授業概要（授業計画）

- <岡崎弘美>
経管栄養
- <加賀爪美佳>
輸液管理
- <山本紀子>
導尿／BLS・AED／一次的吸引
- <長野恵美>
外科的処置・包帯法

※上記項目について、それぞれ実技チェックを実施。

教科書

既習の教科書

参考書

適宜紹介

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、演習記録、技術チェックなどで評価する。